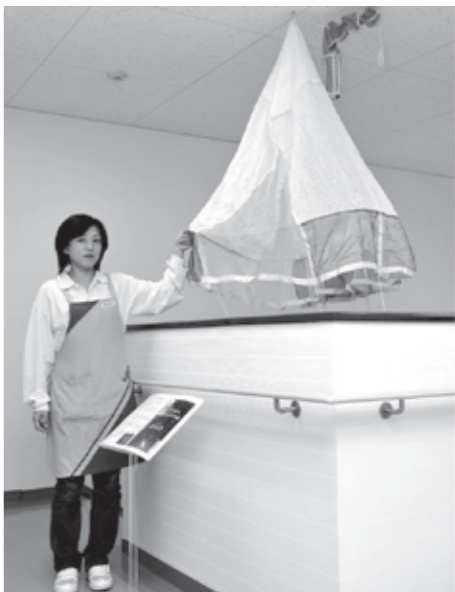


はやぶさプロジェクトに大きな貢献・藤倉航装に大臣感謝状

田村から宇宙へ、高い技術力を世界に証明

平成15年6月に打ち上げられ、7年もの長旅を無事に終え、昨年6月13日、無事地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」。帰還カプセルにより持ち帰った微粒子を分析した結果、そのほぼ全てが地球外物質で、小惑星「イトカワ」に由来するものであるとされたこのニュースは、世界中を駆けめぐるとともに、平成22年を代表する面白い話題となりました。この「はやぶさ」の快挙を支えた、地球に着地するためのパラシュートは市内で生産されたものであることを皆さんはご存じでしょうか。



▲工場に展示されている実際のパラシュート

パラシュートや各種救命装備品を生産する藤倉航装株式会社（本社・東京都品川区）船引工場は、JAXA（宇宙科学研究本部）の依頼により、「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」で採取したサンプルを収納しているカプセルを安全に着地させるためのパラシュートを平成9年から5年の歳月をかけて開発しました。

乗り越えなくてはならない2つの壁

開発にあたり、担当者が直面した2つの壁。
1つは、使用する材料・部品が、宇宙環境に耐えうるも

のであること（機能が劣化しない、周囲に悪影響を及ぼさない）。2つ目は、長期間（計画時には4年間を想定）メンテナンスを要しないですむことでした。

開発段階で、藤倉航装製品の耐宇宙環境耐性はすでに評価されていたが、最も気を配ったことは、「パラシュートが確実に開くか」だったそうです。

通常、航空機用パラシュートは60日間に1度折りたたみ直すのだそうですが、当然、宇宙

空間ではままなりません。研究を重ねた結果が実り、無事「はやぶさ」が帰還したニュースが伝えられた瞬間、工場は喜びに沸きかえったそうです。

藤倉航装株式会社をはじめ、「はやぶさ」プロジェクトに大きく貢献した大学・企業等に文部科学大臣と宇宙開発担当大臣から12月2日、それぞれ感謝状が贈られ、松嶋工場長をはじめ社員の皆さんは、喜びと感激を新たにしていました。



▲感謝状を手にする松嶋工場長（左）と開発を担当した佐藤課長（右）

第60回社会を明るくする運動 第2回田村地区作文コンテスト

純粋で前向きな思いを作文に込めて



▲入賞作品を発表する坪井さん

小学校の部で最優秀賞に選ばれた作品を次のとおり掲載させていただきます。

「明るい言葉」 堂葉小5年 坪井優佳

「えー。めんどくさい。」先生に、プリントを配るのを手伝ってと言われたときに、つい出てしまった言葉。「むかつく」「いやだ」そして「めんどくさい」は、私の口ぐせのようになっていました。

そんなとき、先生から「優佳さんは、先生から手伝いを頼むと、初めはめんどくさいというのに、結局はきちんと手伝ってくれるよね。どうせ、やってくれるなら、最初から快くやってくれた方がうれしいなあ。」と言われました。やることは同じなのに、言葉一つで周りの人たちの感じ方が変わるのかと気づかされました。それから、私は言

葉には、どれくらいの重みがあるのだろうと考えるようになりました。

私は以前、友達関係でなやんでいたとき、相談した友達から、「坪井さんの存在自体、そういう人たちは気に入らないんじゃないかな。」と言われたことがあります。

私が気に入らないのか：たしかにそうかなとも思ったけど、もし相手が私に対して本当に「気に入らない」と言っていたらと考えると、私の心の奥深くに何かが突き刺さったような感覚がありました。言葉で人を傷つけることがあるのだと実感しました。

四月、クラスの中で体調が悪く数日間、学校を休んだ友達がいきました。私は、久しぶりに登校した友達に、「おはようー元気？」と声をかけると、にっこり笑って話に入ってきました。何日後で、その友達のお母さんから、私の母に、「娘が体調不良で休んでいたの、少し学校に行きづらかつ

たらしいけど、優佳ちゃんが声をかけてくれて、不安もふっ飛んだのと喜んでいたので。ありがとう。」とお礼を言われたそうです。

私が何気なく言ったあいさつの一言で、友達の不安がなくなるなんて。元気になるなんて。私は、言葉は人を喜ばすことがあるんだと、言葉の重みを改めて実感しました。

それから、私はもっと明るい言葉をつかおう、人を思いやれる言葉をつかおうと考え、できるだけ行動しようと思いがけるようになりました。友達に対して、これまででは、冗談で「うざい」といっていましたが、つかわないように心がけています。

また、妹に対して、「だまれ」などのように強い口調で話をすることもありましたが、できるだけ、やさしい言葉をつかうようにしています。

先生に手伝いをたのまれたときも「めんどくさい」などという言葉は使わず、一生懸命やるようにしています。そうすると、私の身の回りが明るくなってきました。これまで、クラスであまり話を

しなかった男子とも話をすることが多くなってきました。女子の友達とのときよりも近づいてきて、たくさん冗談を言い合って笑い合えるようになりました。

今、テレビを見ると、いろいろな芸人さんが、冗談交じりに簡単に、「死ぬ。」という言葉を使っています。アニメやドラマを見ると、「むかつく」「うぜえ」などという言葉が毎日飛びかっています。

もちろん、私の身の回りをみても、「めんどくさい」「いやだ」といった言葉が聞こえるし、実際に、私もこうした言葉を使ってしまうこともあります。しかし、こうしたネガティブな言葉に、何もいいことはありません。かげでこそ「むかつく」「うぜえ」と言うことから、いじめも始まります。

みんなが相手を思いやって言葉をつかうことができれば、今よりももっと明るく楽しい生活ができます。そのために、私は言葉の重みをいつも考えながら相手と接していきます。

●最優秀賞
坪井優佳（常葉小5年）

●優秀賞
石川陽菜（瀬川小6年）

●優秀賞
宗像真由子（船引中3年）